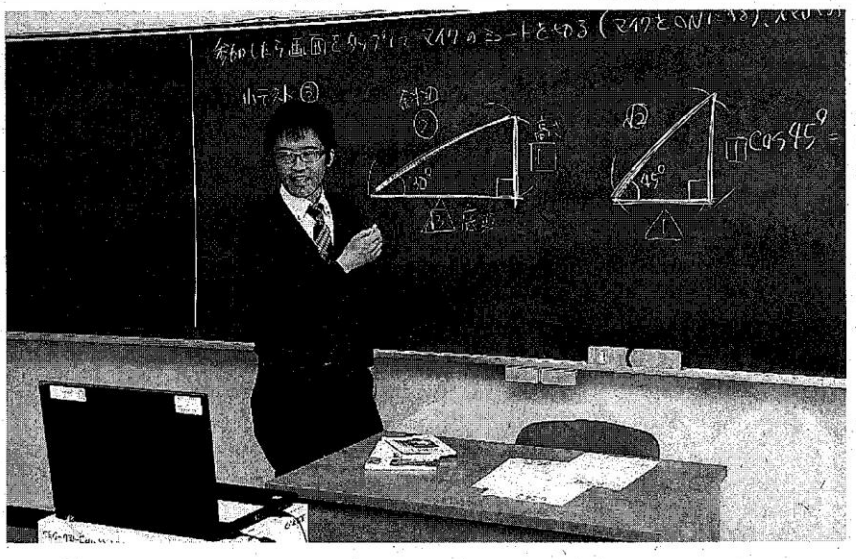
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０２０

朝日新聞　令和２年５月１５日（金）

先生と対話　オンライン授業

丹波・氷上西高　ビデオ会議活用



オンラインで数学の授業をする神崎悠哉教諭＝丹波市青垣町佐治

新型コロナウイルスの感染拡大防止で学校の休校が続く中、丹波市青垣町佐治の県立氷上西高は14日から、教諭と生徒が双方向でやりとりしながら学ぶオンライン授業を始めた。ビデオ会議システム「Ｚｏｏｍ（ズーム）」を活用する。

同校では休校中、生徒にプリントを配り、郵便で送り返してもらって教諭が採点・指導するほか、数学や英語などではユーチューブで授業動画を配信するなどしている。だがプリントはやりとりに時間がかかり、生徒が何に困っているかをすぐに把握しづらい。また、他の生徒の声を聴きながら勉強したいという要望も生徒から寄せられた。

まずは数学からズームによる授業を開始。参加は任意で、午前10時からの2年生30人を対象とした数学の授業には7人が参加した。神崎悠哉教諭が最初に「せっかくのズームを使った授業、やりとりしたいから質問してな」と生徒に呼びかけた。神崎教諭は黒板やプリントを使い、三角比について解説。生徒一人ひとりに問いを投げかけ、どこまで理解しているか確認しながら授業を進めた。

神崎教諭はズームを用いた授業について「新しいことに取り組む姿勢を教諭から生徒に見せたい」という思いも込めたという。実際に授業をして「生徒からレスポンスもあって楽しかった。今後も続け、参加する生徒を増やしていきたい」と語った。同校は参加できない生徒への対応を検討しながら、今後もズームを用いた授業をする計画だ。

（前田智）